KBS
ケイビーエス株式会社
www.kbsjapan.com
【社内報ナルゲ】
날개(ナルゲ)とは韓国語で翼(つばさ)を意味します。

날개 nalgae

vol.53
January 2020

富山県室堂高原にて
(2019年11月9日)

時代後れのパソコンユーザー

私はスマートフォン、所謂スマホが苦手である。

もちろん、スマホは常に持ち歩いているし、天気や地図、路線、ニュース等の情報を見るのに大いに活用している。ただ一点、スマホでの文字入力が苦手なのだ。

そもそも、新し物好きの父のお陰で幼少の頃からコンピューターのキーボードに慣れ親しんだ私にとって、携帯電話の小さな画面でチマチマと文字を打つのは苦痛にさえ感じることがある。文字打ちに時間がかかるので、自分にイライラするのだ。

しかし、時代はどんどんPCからスマホの時代になり、プライベートだけでなく、仕事のメールもスマホでやり取りするようになってきた。中には、キーボードで文字打ちするより、スマホの方が早く入力できる者もいるらしい。若い頃はコンピューターに精通して時代を先取りしていたはずが、いつの間にか時代に取り残された気分だ。

それでも、やはりパソコンでないとできないことがある。キーボードとマウスでないとできないことがある。こうして私は、死ぬまでスマホが苦手なままなのだろう。

しかし、スマホにしてもコンピューターにしても、基本性能は進化し尽くした感があり、もはや3Dゲームや CG等の特殊な分野でない限り、一般的な使用には十分な性能である。

今後は、通信速度の向上や、省エネなどの方向へ進んでいくのだろうか。できれば、キーボードやスマホ入力に代わる画期的な入力方法が発明されると嬉しいのだが。

代表取締役　高　允　男

マダンの児を出版して

韓国と日本の空の下で

総務部　林芳子

「マダンの児」は、KBS社内報「ナルゲ」17号から26号（1996～2001年）まで連載されました。

著者の朴禮和（パク　イェファ）さんは1931年韓国の古都扶余生まれ。幼い頃の故郷でのかすかな記憶、７歳で家族とともに日本へ渡って来た体験、名古屋の小学校（国民学校）を卒業するまでの思い出をさし絵とともに描かれています。

マダンとは、韓国・朝鮮の農家で庭のこと。マダンでよくひとりで遊んだことから「マダンの児」とタイトルにしました。

第１章「韓国の空の下で」では、

日本に来るまでのふるさとのこと、あめ売りや運動会の様子、ポン菓子の機械を初めて見たときのこと、クルパン（書堂）でのハングルの勉強など、戦前の朝鮮（韓国）の田舎での、日常の出来事や人々の暮らしなど描いていて、まるでタイムスリップしたような気持になります。

第２章「日本の空の下で」では、

日本の名古屋に落ち着き、言葉も分からないまま小学校（国民学校）に入学。その様子が目に浮かぶように描写されています。

・先生の言っていることが分からないまま、となりの席の子の助けを借りながら描いた絵が廊下に貼りだされたときのうれしさ。図画が好きになりました。
・クラスメートたちとの「これなーんだ？」のゲーム。だんだん言葉を覚えていきます。そしてある日、初めて質問しました。「これなーんだ？」
・日本にきてどうしてもなじめなかったこと――名前が変わったことに対して父親に「なぜ？」と聞いたり、先生にも質問してみます。
・ある冬の日の贈り物――古びた運動靴。その先生は彼女にとって「あしながおじさん」のようでした。

さし絵は、

風景や情景、エピソードをイラストのように描いていて、その場へ入っていくような気がします。

・あめ売りが来ると、飴を切るはさみのカチカチ鳴る音が聞こえてきます。祖母のチマ（スカート）をひっぱってあめを買ってと赤いチョゴリの少女がねだっています。小さい弟を抱いた祖母のちょっと困ったような姿が描かれています。
・初めて船に乗ったとき、「緑がかった深い藍色の海面から、白い波頭がむくむくともり上がりながら、私の方へ向かってくるようで恐ろしくなりました」。７歳の少女が初めてみた海、日本へ渡る関釜連絡船の中。不安な気持ちが伝わってきます。大きな船窓に赤いチョゴリの少女が小さく描かれています。

子どもらしいまっすぐなまなざしを通して、

時代の大きなうねりが映し出されていきます。読み終えたとき、少女と周りの人々との交流に、ほっこりとした信頼と希望を見出していただければこの上ない喜びです。

アマゾンにて発売後、大阪日日新聞（12月29日）、毎日新聞（2019年３月26日）、神戸新聞（４月14日）などマスコミにも取り上げられました。大きな反響よんで全国の書店や図書館からの問合せ・注文も相次いでいます。直接KBSにても受け付けています。

アマゾン以外の取扱は下記のとおり：

・コリアボランティア協会　TEL　06-6717-7301
　FAX　06-6717-7302
・ハングルの森本店　HP：www.hanglesup.com
　TEL　052-710-7382
・まちの拠り所 Yosuga　TEL　06-6796-9897

アマゾンにて
好評
発売中!

マダンの児　検索

B6判　136頁
ISBN978-4-9910158-0-9

1冊　1,200円＋税

このコーナーは、KBSの登録翻訳者の方からお寄せ頂いたエッセイを掲載しています。

Die Zukunft der Übersetzungen

ドイツ語翻訳者　Hutter Roland Ryu
フッター　ローランド　リュウ

Es gibt Berechnungen, die besagen, dass bis zum Jahre 2025 rund die Hälfte aller Arbeitsplätze durch künstliche Intelligenz ersetzt wird. In Bereichen, in denen ein erheblicher Arbeitskräftemangel herrscht mag dies sicherlich hoffungsvoll klingen, aber für viele Menschen bedeutet diese Tatsache, dass ihr Arbeitsplatz und damit auch ihre Existenz bedroht sind. Als Übersetzer mache auch ich mir Gedanken, da die Qualität von Übersetzungsmaschinen wie Google Translate einen erheblichen Fortschritt erlebte und bereits diverse Apps schon als hilfreiche Dolmetscher einsetzbar sind.

Wenn man mir jedoch die Frage stellt, ob die künstliche Intelligenz in der Lage ist, die Arbeit eines Übersetzers bzw. Dolmetschers zu ersetzen, würde ich darauf mit einem klaren „Nein“ antworten. Genau gleich wie der Mensch, besitzt auch die künstliche Intelligenz die Fähigkeit, aus Erfahrungen zu lernen und seine Qualität kontinuierlich zu verbessern, aber leider fehlt ihr nebst anderen, eine wichtige Kompetenz, die in der Praxis von essentieller Bedeutung ist.

Der Dichter Heinrich Heine sagte einst zum Thema Übersetzungen: „Wie überhaupt jeder einen bestimmten Gegenstand in der Sinneswelt auf eine andere Weise sieht, so sieht auch jeder in einem bestimmten Buche etwas anderes als der andere. Folglich muss auch der Übersetzer ein geistig begabter Mensch sein, denn er muss im Buche das Bedeutendste und Beste sehen, um dasselbe wiederzugeben. Den Wortverstand, den körperlichen Sinn kann jeder übersetzen, der eine Grammatik gelesen und ein Wörterbuch sich angeschafft hat. Nicht kann aber der Geist von jedem übersetzt werden“. Diese Begabung, wie sie Heine nennt, ist beispielsweise eine der Fähigkeiten, die der künstlichen Intelligenz fehlt und die sie sich durch erlernen nicht anzueignen im Stande ist.

Da wir Menschen nicht immer das sagen, was wir auch meinen oder unsere Äußerungen mit rhetorischen Mitteln versehen, erfordert das korrekte Verständnis der Sprache stets ein gewisses Interpretationsvermögen sowie eine Toleranz, dass Inhalte nicht immer eindeutig, sondern vieldeutig sein können. Die künstliche Intelligenz, welche nach dem Prinzip von Ursache und Wirkung, d. h. in diesem Falle nach dem Prinzip von Input und Output arbeitet, stößt ganz klar auf ihre Grenzen, falls eine eindeutige Zuordnung nicht möglich ist. Und selbst wenn im Zweifelsfall basierend auf der Wahrscheinlichkeitsrechnung unter der Auswahlmöglichkeit eine Antwort ausgewählt wird, besteht letztlich immer die Gefahr, dass es sich bei dieser Antwort nicht um die richtige handelt. Im Bereich Übersetzungen wird daher die künstliche Intelligenz niemals in der Lage sein, den Menschen zu ersetzen.

Ich denke aber, dass wir uns nicht auf unseren Lorbeeren ausruhen sollten, denn wie Heine es bereits beschrieben hat, ist dies nur zutreffend, solange wir auch „begabte Menschen“ sind, die „im Buche das Bedeutendste und Beste sehen, um dasselbe wiederzugeben“. Als Übersetzer müssen wir uns dessen stets bewusst sein und unsere Übersetzungsfähigkeiten entsprechend weiterentwickeln, denn der Stand der Technik wird vielleicht noch nicht morgen, aber in naher Zukunft schon weiter sein, als wir uns vorstellen können. Wenn wir uns also selbstüberschätzen, wird der Tag bereits vor der Türe stehen, an dem uns die künstliche Intelligenz übertroffen hat. Damit dies nicht zur Realität wird, denke ich, dass wir uns täglich um eine Verbesserung unserer Fähigkeiten bemühen sollten.

翻訳の未来

2025年までに職業の約半数が人工知能に代わるとの統計があります。労働力が不足している分野においては嬉しい反面、多くの人間にとっては、自身の職場と生活を奪いかねない危機を意味します。 Google翻訳などのソフトが著しい発展を遂げ、今となっては自動通訳アプリもまた非常に高い水準を示していることから、私もまた翻訳者として不安になることがあります。

しかし、翻訳者や通訳者に代わって人工知能がその作業を行うことができるかと聞かれると、私は自信を持って「それは不可能」だと言えます。それは何故かと言いますと、人工知能には人間と同様に学習能力があり、品質を向上しますが、実戦で不可欠な根本的な部分が不足しているからです。

ドイツの詩人であるハインリヒ・ハイネは翻訳について以下の言葉を残しています。「一人ひとりが世の中のあらゆる物を独自に捉えているように、本の内容もまた人によって異なった姿を持っている。従って、翻訳者は精神的に有能でなければならない。それは翻訳者が本の内容を忠実に再現するため、常に最良でもっとも重要な要素を把握する必要があるからである。言葉を理解する程度やだいたいの意味であれば、文法を勉強し、辞書を頼りにしている者にも翻訳することは可能だ。しかし、魂を翻訳することは誰にでもできることではない。」ハイネ氏が言う「精神的に有能」が人工知能に不足しており、学習能力で身に着けることのできない要素の一つなのです。

人間は必ずしも、思ったことをその通りの言葉で表現するとは限りませんし、暗喩などを使用し詩的な表現をすることから、言葉の意味を正しく理解するためには一定の解釈能力や言葉には複数の意味が存在することを前提とした柔軟な理解力が必要です。原因と結果、即ちインプットとアウトプットの原理を基本とする人工知能にとっては、言葉が複数の意味を持つ場合、その処理に困り、確率論に従って複数の選択肢の中からもっとも可能性の高い回答を選択したとしても、最終的にその回答が正しいという保証がない。従って、人工知能が人間に代わって翻訳作業を行うことには限度があります。しかしながら、人工知能に職場を奪われることはないといった慢心は禁物だと考えます。

ハイネ氏が述べたように、人間がより優れているのは「精神的に有能」であり、「常に最良で最も重要な要素を把握する」ことができる場合にのみ該当します。翻訳者としてそのことを決して忘れずに、自身の能力を向上させる必要があります。技術の発展は今日から明日にかけて人類を追い越す訳ではありませんが、想像以上に急激な発展を遂げています。慢心していれば人工知能は我々人間よりも優れた能力を持つことになるでしょう。それが現実とならないためにも日々の努力を怠ってはならないと思います。

「デュア」or「デュワー」???

営業企画部　金山 麻美

KBSに入社して丸4年が経ちました。翻訳業務に携わる中で、翻訳とは、その言語に関する「**知識力**」に加え「**想像力**」と「**リサーチ力**」がとても大切だなとつくづく感じます。

つい先日受注いただいた簡単な病院内のサイン案件で「デュア」という言葉が出てきました。原稿量が少ない案件については、翻訳者に原稿を回す前に私の方でまず内容を確認するのですが、この「デュア」の意味が分からずインターネットなどで検索しても探しきれませんでした。もちろん、翻訳者のほうでもリサーチはしてもらうのですが、この「デュア」についてはいくつかの翻訳者から確認が入りました。最終的にお客様に確認を取ったところ、魔法瓶型の冷却器のことでその考案者であるイギリス人化学者 James Dewar 氏の名前「Dewar（デュワー）」に由来していることが分かったのです。「デュア」ではなく「デュワー」で検索すると一発でヒットしました。唯一、1人の翻訳者からはお客様の回答を聞かずして「デュワー」としてきっちり訳されて翻訳が上がって来てきたので、リサーチ力の大切さを痛感しました。

KBSでは実務翻訳案件を多く取り扱っているのですが、ここ最近、映像翻訳についてお客様からよくご相談を受けます。日本語の字幕翻訳については以前に一

度勉強をしたことがあったのですが、多言語の字幕についての具体的な決まりについては勉強不足でした。

調べたところ、やはり多言語の場合でも、人間が1秒間で視覚的に記憶できる文字数やその幅に限りがあるため、各言語ワンシーンにつき表記できる文字数や行数に制限があり、それらを考慮しながらの翻訳が必要なようです。BBCの字幕ガイドラインには、英文字幕の場合1行につき37文字、それを最大でも2行までなどという細かな決まりがありました。

ほかにも、ネイティブの翻訳者や校正者から日本語についての細かな確認が入ることがあるのですが、私自身、日本語の微妙なニュアンスを詳しく説明できず、一から調べなければ分からないことも多々あります。KBSの営業部と翻訳部では、どんな小さなことでも**疑問に思ったことについて、こういった「調べる」を日々繰り返しております。**

この仕事に携わってからというもの、言葉の意味や物事の背景などを事細かに調べる癖が付いたような気がします。ふだん生活している上では知りえないことを知ることができる楽しさがある反面、自身の知識、想像力、リサーチ力不足に打ちひしがれる日々です。これからも品質の高い、より的確な翻訳をみなさんに提供できるよう、上記3つの要素を磨いていきたいと思います！

こんな仕事しています!

最近中文翻译工作之所感

翻訳部（中国語担当）　呂 咏鴻

近年，随着赴日外国游客增加，多语种翻译、DTP和印刷的需求也愈来愈多。这次，我就最近中文翻译工作中遇到的2个现象及问题做一下介绍。

第一，字体的问题。最近使用翻译好了的中文文本文档自行设计排版、DTP制作的公司貌似有所增加了，但是，外文的话，不单单只是将翻译的文字素材填放进去就算完事儿了，还需要各语言的字体使用等DTP专业知识。否则，各母语使用者在欣喜看到自己国家语言文字的时候，总有怪怪的感觉。

现行中文，分为中国大陆使用的简体中文和港台等地使用的繁体中文两种。最近，客户将自行排版制作好了的DTP文档发来我公司委托校正的工作有所增加。其中常见的问题还是用错字体。虽说是同为中文，简繁所使用的字体是不同的。例如，繁体字作品中常常误用了简体字字体（反之误用的也有），或一篇文章当中不同的字体混用，再或者就是想当然地使用了日语字体进行中文排版。

簡体字「新干线」の「线」だけが明朝体となっている実例

第二，关于广东话（粤语，香港及广东省说的口语）。随着日本旅游在香港人中人气上升，近来屡屡接到了关于广东话（粤语）翻译的咨询，但广东话（粤语）只能说是中文当中的一个方言。据香港人介绍，书面文章，那就是一般的繁体中文就行了，表达用词和台湾中文略有不同而已。此外，视频影片翻译，如果是电影台词字幕，会使用含有特殊文字的广东话（粤语）口语体进行翻译，但观光介绍视频影片的解说字幕，就不会使用含有特殊文字的粤语口语，而会采用香港使用的繁体中文进行翻译。如此，具体情况具体分析。我们会针对不同稿件的特点，斟酌并用心翻译出符合香港人语言文字表达习惯的作品。

大中华区及华语社会的语言文化颇为复杂，对于第一次接触中文语言学及翻译相关工作的日本人来说，可能听着是一头雾水吧。今后，不论是面向赴日中国人的文字作品，还是面向特定地区使用的文字作品，我们KBS依然会一如既往地针对来自不同地区有着不同文化背景的中文使用者们，从翻译到DTP、排版校正领域提供优质的服务。

中国語翻訳の中で最近感じたこと

近年、インバウンド（訪日外国人旅行）が増加しつつあるなか、多言語翻訳・DTP・印刷のニーズもますます多様化しています。今回は最近、中国語翻訳業務の中で感じた2つのケースについて紹介させていただきます。

1つ目は、フォントの問題です。中国語に翻訳されたテキストを使ってデザイン、DTPをする会社も増えてきたようですが、外国語の場合は、ただ翻訳テキストを入れるだけでなく、各言語用のフォントを当てるなど、各言語用のDTPの知識が必要です。そうでないと、ネイティブから見れば、せっかく自国の言語文字を見つけたものの、なんとなく違和感を覚えるでしょう。

中国語の場合、中国大陸向けの簡体字と、台湾・香港など向けの繁体字の2種類の文字が使われています。最近では、お客様のほうでされたDTPデータを弊社で校正する案件も増えているのですが、よくある問題はやはりフォントの間違いです。同じ中国語とは言え、繁体字に簡体字のフォントを当てたり（逆もまたしかり）、一つの文章の中で混在していたり、日本語フォントを使用している場合まであります。

2つ目のケースは、広東語（香港及び広東省で喋られている言葉）についてです。香港からの訪日旅行の人気が高まる中、広東語翻訳の問い合せをたびたびいただくのですが、広東語というのは中国語の方言のひとつだと言えます。香港出身の方によると、書面の場合、即ち繁体字を使用しますが、言い回しは同じ繁体字を使用する台湾語とは少し異なります。また、同じ動画翻訳であっても、映画のセリフの字幕であれば広東語の方言専用の特別文字を使用して翻訳しますが、観光案内動画のナレーションの場合は特別文字を使用しない香港で使う中国語を当てる場合もあるなど、ケースバイケースです。何よりもその案件に合った、香港人に馴染みやすい翻訳を心がけております。

中華圏や中国語圏の文化は多種多様で、初めて中国語語学や翻訳関係のお仕事に触れる日本の方々にとってはちんぷんかんぷんかもしれません。訪日中国人向けのものであれ、現地向けのものであれ、様々な地域出身や文化背景を持つ中国語話者へ向けて、ケイビーエスではこれからも、中国語翻訳からDTP・レイアウト校正まで、高品質で一貫したサービスを提供していくことに邁進してまいります。

立山黒部アルペンルートに行ってきました!!

2019年11月8日～9日、1泊2日の社員旅行を実施。今回は立山黒部アルペンルートでした。　（幹事・呂咏鴻）

1日目は、黒部峡谷トロッコ列車での観光でした。宇奈月駅から鐘釣駅まで往復各1時間ほど、黒部峡谷トロッコ列車に乗りました。時間が長くてトンネルが多く非常に寒かったのですが、自然豊かで迫力ある景色が印象的でした。夜は長野県にあるホテル白馬に泊まりました。

2日目は、立山アルペンルートでした。日本唯一そして日本最高所のトンネルを走るトロリーバス・日本唯一の全線地下を走るケーブルカー・高低差500mの間に支柱の1本もないロープウェイなどを乗り継いで、高い山の上を移動しながら観光しました。高さ日本一の黒部ダム（1470m）の上も歩きました。黒部ダム展望台（1508m）・大観峰展望台（2316m）・室堂平（2450m）からは黒部ダムや雪の積もった壮大な立山連峰が絶景でした。

今回の旅行はツアーで大阪から新高岡まで特急サンダーバードと北陸新幹線で移動、現地では数種類の乗り物に乗り継いで少しハードな行程でしたが、快晴の天気に恵まれ、息をのむような絶景も堪能し楽しい旅となりました。

▲黒部平　ここからロープウェイとトロリーバスでさらに登ります

▲2日目のお昼は富山湾で獲れた新鮮な白海老の天丼

▲初日のメインは富山県宇奈月駅から鐘釣駅までの片道1時間の黒部峡谷トロッコ電車です

▼黒部ダムの有名な放水

▲ダムの放水時、見事に虹がかかりました

▲万年雪展望台
遠くの方に小さく万年雪が見えました

▲添乗員さんに頼まれ旗を持つ社長

▲室堂　展望台を上がると雄大な山々が目に飛び込み、遠くには温泉の湯気が見え、なんだか幻想的でした

▲乾杯! 夕食はバイキング　種類が豊富で全種類食べきれませんでした

당신은 '결과중시형'? '과정중시형'?

翻訳部　柳　美　善

최근 몇 년 전부터 저는 신문 방송사의 취재 관련의 일을 가끔 돕고 있습니다. 이번 취재는 도시 재생 사업의 일환으로 지역 주민들의 공동체 활동에 초점을 맞춘 내용이어서 주로 주민 공동체 대표들의 인터뷰가 중심을 이루었습니다.

취재 장소는 오사카 북쪽에 자리한 나카자키초의 'Salon de AManTO'라는 곳입니다. 나카자키초는 원래 낡고 오래된 가옥들이 밀집된 지역입니다. 그래서 대부분의 오래된 집들은 도시 재생 사업의 하나로 재건축되거나 그곳에 새로운 건물이 들어섭니다만 'Salon de AManTO' 카페는 조금 달랐습니다. 특별히 건물을 보수하거나 새롭게 짓지 않고 있는 그대로 활용한다고 해야 할까요? 카페에 들어섰을 때 받은 저의 첫인상은 '여기에 5분 이상은 못 있겠구나' 였습니다. 저는 알레르기가 심한 편이어서 먼지나 공기 순환이 잘 안되는 곳은 되도록이면 피하는 편입니다. 그러나 이번에는 카페 안에서 취재가 이루어졌기 때문에 피할 수 없는 상황이었습니다. 이곳 공동체는 'Salon de AManTO' 카페에 모인 예술가들이 중심을 이루어 형성되었습니다. 재미있었던 것은 인터뷰에 응해준 공동대표의 예상치 못한 대답들이었습니다.

기자: 앞으로 이 공동체의 활성화를 위해 어떤 계획들을 가지고 계신지요?

공동대표: 우리에게는 계획이라는 건 없습니다. 우리는 어떤 목표를 달성하기 위한 목표 달성형 공동체가 아닙니다. 우리는 지금 우리 앞에 놓인 문제를 해결하기 위해 우리가 할 수 있는 일들을 합니다. 그래서 우리는 과정을 중시하는 과정 중시형 공동체이며, '인연'이라는 것을 아주 중요하게 생각합니다. 그래서 누군가 우연히 이곳을 알게 되어 이곳에 모이게 되었고 또 이곳에서 본인들이 하고자 하는 일(예술활동)을 하며 살고 있지요. 이것도 '인연'이지요.

무슨 5차원 세계를 보고 있는 듯한 최근 만난 인물들 중에선 가장 강한 인상을 남겼습니다. 이날 인터뷰를 끝내고 돌아오는 길에 이 지구상에 정말 다양한 생각과 다양한 삶의 방식을 가진 사람들이 공존한다는 것을 다시 한번 깨달았습니다. '아등바등 살지 않아도 이렇게 사는 사람들도 있구나'라는 것에 마음 한구석에 위안이 되기도 했습니다. 그래서인지 'Salon de AManTO' 카페 공동대표의 말이 더 기억에 남습니다. 과정을 중시하는 것에 대해 다시 한번 생각해 본 하루였습니다.

あなたは「結果重視型」?「過程重視型」?

ここ数年前から、私は新聞・放送局の取材関連の仕事を時々手伝っています。今回の取材は、都市再生事業の一環として、地域のコミュニティーの活動に焦点を当てた内容で、主にコミュニティー代表者のインタビューが中心となりました。

取材場所は大阪の北地区に位置した中崎町の「Salon de AManTO」というところです。中崎町は、元々古い家屋が密集した地域で、ほとんどの古い家は都市再生事業の一つとして再建されたり、そこに新しい建物が建て替えられたりしていますが、「Salon de AManTO」カフェは少し違いました。特に建物を補修したり、建て直したりはせず、そのまま使っていると言えばいいでしょうか?カフェの第一印象は「ここでは5分以上は居られないな〜」でした。私はアレルギー持ちで、ほこりや空気循環が悪いところはなるべく避ける方です。しかし、今回はカフェの中で取材が行われたのでそれは避けられませんでした。

このコミュニティーは『Salon de AManTO』カフェに集まったアーティストたちを中心に形成されました。面白かったのはインタビューに応じてくれた共同代表の予想もつかなかった答えでした。

記者: 今後、このコミュニティーの活性化や計画について聞かせて頂けますか。

共同代表: 私たちには計画というものはありません。私たちは何かを成し遂げるための『目標達成型』のコミュニティーではありません。私たちは今私たちの前に置かれた問題をどう解決するか、プロセスを重視する『過程重視型』のコミュニティーであり、「縁」というのをとても大切にしています。なので、誰かが偶然ここを知ってここに集まって、またここで自分たちがやりたいこと(芸術活動)をして生きています。これも「縁」でしょう。

なんと5次元の世界を見ているような、最近会った人の中では最も強烈な印象を残した人物でした。この日のインタビューを終え、帰り道にこんなことを考えました。

この地球上には本当に様々な考え方や生き方を持つ人々が共存していることに改めて気づきました。バタバタ忙しく何かに追われるような生き方をしなくても、「Salon de AManTO」カフェの人々のような暮らしをしている人がいることで、少し心の片隅に安心感を覚えました。

結果よりも過程を重視するという「Salon de AManTO」カフェの人の話が心に長く響きますね。今回は過程の大切さについて改めて考えた一日でした。

"見える"って素晴らしい!

制作部　稲木　隆文

2019年の流行語大賞に「免許返納」がノミネートされていましたが、私の視力も免許を返納しなくてはならないほど落ちてしまいました。

前々から視力が落ちてきていることは気にしていたのですが、ここ最近特に「標識が読めない」「矢印信号に近づいてもブレて見えない」ということが多くなり「このまま裸眼で運転するといつか事故を起こしかねない」と思い、眼鏡を作りに行きました。

45歳にして初めて眼鏡を作ったのですが、今は1時間ぐらいで出来るのですね、驚きました。

できた眼鏡をかけると視界が広がり標識も矢印信号もハッキリと見え、これで事故を起こさずにすみそうです。

それと眼鏡をかけて、良かったことがもう1つありました。

社員旅行へ行った時のことです。ふだんかける習慣がないので忘れていたのですが、トロッコに乗っている時思い出し眼鏡をかけるとボヤッと見えていた景色は一変!

空は青く晴れ、黒部・立山の雄大な山々は白い雪をかぶり裾野は赤く紅葉していて、自然が織りなす美しい色を隅々まで堪能できました。

たかが「見える」ようになっただけかもしれませんが、なんだか若い頃を思い出し気分まで若返った気持ちになりました。

夕陽を眺める

――四天王寺の「日想観」

制作部　李　秀　泰

昨年９月25日、仕事を終えるや一目散に自転車を走らせ、四天王寺に向かった。会社からは10分もかからなかった。

陽が沈むのを見に行くためだ。昼と夜の長さがほぼ同じである春分の日と秋分の日、四天王寺の西門(極楽門)には大きな石の鳥居があるが、そのど真ん中を夕陽が鮮やかに沈んでいくのが見える。２日遅れとはいえ、十分だろうと思いながら。

四天王寺では毎年、この春と秋の２回、伝統行事「日想観(じっそうかん)」として、午後５時20分、僧侶が西門に立って多くの参詣者らと手を合わせ法要を営んでいる。すでに十年近く前になるが、私は同じこの場所で、あかね色に染まった西の空を見つめていたことを覚えている。

四天王寺前から西の方（かつての難波津(なにわつ)）を見下ろせば、現在では左右にビル群が林立している。その真ん中を夕陽が沈んでいくこと自体が奇跡的でもあるが、陽が傾きだす頃には手でさえぎるほど眩しい太陽も、やがて陽が沈み出すと、みるみる空は暗さを増し、夕陽の色はどんどん変化して沈んでいく。あっという間に天が描きだした鮮やかなグラデーションに、自然の雄大さを感じた。

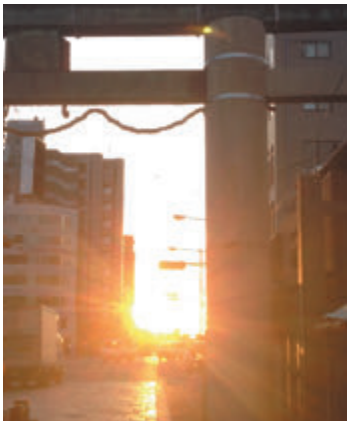
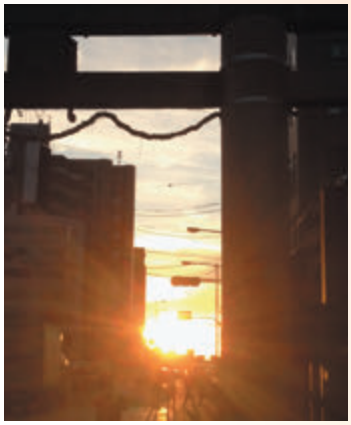
でも、西に向かって、夕陽に向かって、なぜ人々は手を合わせてきたのだろうか。

四天王寺は６世紀、聖徳太子が建立した。当時は門前まで海が迫り、上町台地から西は大海原だったという。六甲山系と淡路島の中間の水平線に沈む、その夕陽の美しさは格別であったらしい。

「……四天王寺のシンボルとなっている西門の石鳥居(いしのとりい)は、古来より西方極楽浄土の東門にあたると信じられており、現在も真西に陽が没する彼岸の中日に、夕陽を拝して極楽浄土を観想するという『日想観』が行われています。」（石鳥居の説明文より）

こうして平安時代、弘法大師・空海による修行が由来となり、「浄土信仰」として皇族・貴族から庶民の間まで広まり、四天王寺はその修行の中心地となってきたという。

つい最近、大阪環状線に乗り、ちょうど弁天町から大正あたりまで来ると、空はぐっと広く見え、遠く向こう側には六甲山脈、手前には大阪湾が見える。この日は特に晴れていて、すでに傾き出した夕陽はとてもまぶしかった。あの日、四天王寺で見たときの夕暮れを思い出し、電車にゆられながら西の空を見ていた。

四天王寺西門の石鳥居の真ん中を沈んでいく夕陽(2019.9.25)

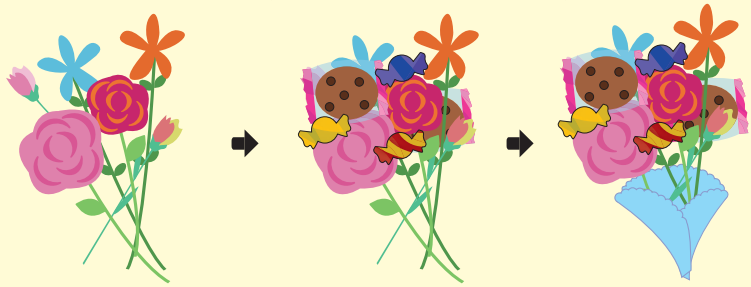
キャンディブーケの作り方

総務部　松本 佳代子

先日、友達のお子さんに作ってあげたら、とても喜んでいただけたので、作り方を紹介します。意外と簡単ですよ～。

材料：造花（４～５本）、お好きなお菓子や飴、ビニール袋、リボン、包装紙 もしくはレースペーパー

① 造花を簡単にまとめる　② 隙間にお菓子を入れる　③ 包装紙を巻く



④ ビニール袋をかぶせる　⑤ 口を縛ってテープで止める　⑥ 形を整えリボンをかける

DTPコストの削減に！ 自動流し込み作業のご提案

外国語の組版データ作成作業を依頼したいけど、コストが合わないので少し不安はあるが仕方なく内製化されているという話をお客様からよく聞きます。

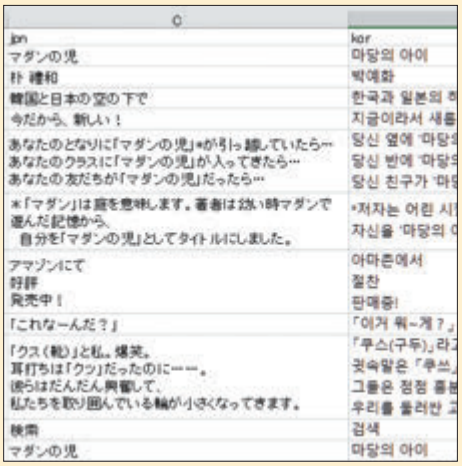
最近は、多言語化の需要増に伴い、日本のフォントメーカーからも中国語や韓国語のフォントがリリースされており、専門家がいなくても、とりあえず外国語のDTP作業をすることができるようになっています。ただ、やはり言語がわからないとミスが多くなりがちなのも事実。

KBSでは、イラストレーターに自動でテキストの流し込み作業ができるソフトを導入しており、活用次第ではDTP作業のコストを削減できます。

ソフトを活用した自動流し込み作業の流れ

1 イラストレーターの元データを準備し、自動化ソフトに取り込みます。

2 ソフトがイラストレーター上にあるテキストを抽出し、エクセルデータ形式のファイルを出力します。



jpn	kor
マダンの児	마당의 아이
朴 禮和	박예화
韓国と日本の空の下で	한국과 일본의 하
今だから、新しい！	지금이라서 새롭
あなたのとなりに「マダンの児」が引っ越していたら…	당신 옆에 '마당
あなたのクラスに「マダンの児」が入ってきたら…	당신 반에 '마당
あなたの友だちが「マダンの児」だったら…	당신 친구가 '마
*「マダン」は庭を意味します。著者は幼い時マダンで遊んだ記憶から、自分を「マダンの児」としてタイトルにしました。	*저자는 어린 시 자신을 '마당의
アマゾンにて好評発売中！	아마존에서 절찬 판매중!
「これなーんだ？」	「이거 뭐~게？」
「クス（靴）」と私。爆笑。耳打ちは「クツ」だったのに……。彼らはだんだん興奮して、私たちを取り囲んでいる輪が小さくなってきます。	「쿠스(구두)」라 웃음을 참지 못 그들은 점점 흥분 우리를 둘러싼 고
検索	검색
マダンの児	마당의 아이

3 エクセルファイルを翻訳者が翻訳します。

4 翻訳したエクセルデータを再度流し込みソフトで取り込み、元のイラレデータに翻訳テキストを流し込みます。

5 手作業でフォントの変更、文字の重複・あふれ等を調整して完成。

KBSでは、上記4番の工程までを従来の1/3～1/8程度の低価格で請け負っております。

メリット

- **作業が圧倒的に速い!**
30ページのパンフレットでも、1時間もあれば流し込み作業が完了します。
- **コピペ間違いが無い!**
ソフトが自動的にテキストを置き換えるため、よくあるコピペ間違いが起こりません。

デメリット

- **翻訳作業開始時に完成データが必要**
元データに頻繁に修正が入るような仕事には向いていません。

※ご希望の場合、詳しい説明やサンプル作業データをご提供させていただきます。
一度、検討されてみてはいかがでしょうか?

【個人情報の取扱について】

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。
ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。
当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。
当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

年末年始休業日のお知らせ

過ぐる年も格別のお引立てとご愛顧を賜り、まことにありがとうございました。
年末年始を下記の通り休業させていただきます。
新しい年も、なにとぞお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

12月28日(土)～ 1月5日(日)

1月6日(月)午前中営業、1月7日(火)より平常通り営業いたします。

発行日　2020年1月1日

発行／編集　ケイビーエス株式会社
〒544-0033
大阪市生野区勝山北2-16-17
電話　06-6716-5665
FAX　06-6711-2804
E-mail　info@kbsjapan.com
URL　http://www.kbsjapan.com/

編集後記

●前回編集長を務めたときは、初めてにして記念号だったということもあり一人でバタバタしていた記憶がありますが、今回は少しは落ち着いてできたかと思います。2019年もお客様からナルゲを読みましたというお声を多々いただき、中には「金山さんって意外とお若いんですね」なんてお言葉もあり喜んでいたのですが、気が付けばもう三十路目前。良いことなのか悪いことなのか、気持ち的には全く実感がありません。とはいえ、身体の変化は無視できません。2020年は運動不足解消を目標にがんばります。（金山）

●11月の「立山黒部アルペンルート」のツアーはシーズン的にも最高でした。紅葉は真っ盛りでしたし、朝、長野･白馬のホテルから見た立山連峰の雄壮は圧巻でした。足元に不安を抱える私でしたが、ケーブルカー、ロープウェイ、トロリーバスなど、乗り物中心の登頂であったのと、何よりも皆さんの助けがあっての達成でした。本当に有難うございました。（sute）